

水車でつながる地域の輪

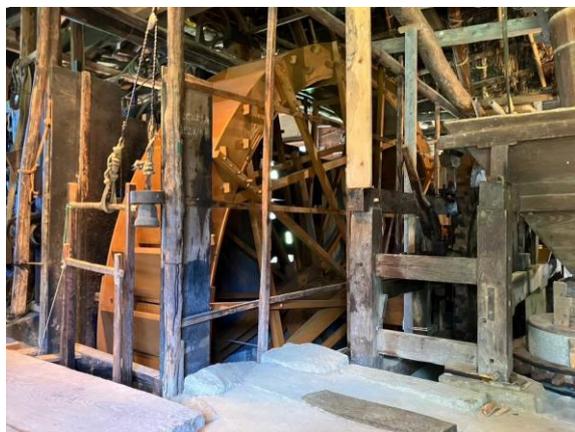
～水車の魅力を発信～

代表者 川嶋 伸岳（創発科学研究科1年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、高原水車場という日本最古といわれる水車が現存する水車場で活動を行っている「みて かんじて つたえて」という団体が主体で行いました。私たち「みて かんじて つたえて」の普段の主な活動内容は月1回の水車の一般公開日に水車場に訪れた人へコーヒーマシンの販売です。他の活動としては友の会という水車の保存会の方々と一緒に昔の暮らしの体験等に参加しています。高原水車は、林町キャンパスから近い六条町という場所にあり、周りは新興住宅が多い中、身近に古くから残る水車と古民家があるととても貴重な場所だと感じました。そのような環境の中では学べるものが多くあると思い、高原水車場を活動場所とすることになりました。

高原水車で活動を重ねると高原水車場にある建物、水車だけでなく、友の会の方々に対しても魅力を感じる一方で高原水車があることを知らない地元住民が多いことが分かりました。友の会には水車のことに限らず、水車のある暮らしを経験されていた方、昔は大工として働き様々な技術と知識を持っている方、昔から高松で暮らし地域の歴史に詳しい方など多方面で活躍されている方々が多く在籍しています。そのことをより多くの地元の方に知ってもらい、高原水車に訪れてほしいと考えました。



※高原水車場の様子

2. 実施期間（実施日）

令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

多くの地元の方に高原水車を知ってもらうことを目的として主に3つの活動を行いました。その活動の成果を以下にまとめました。

1つ目は、看板とのぼり、のれんを作成しました。看板は購入した木の板を黒板用ペンキで塗り、購入したイーゼルに立てかけました。のぼりは布を購入し、コーヒースタンド「水辺の休憩所」の名前をペンで手書きしました。のれんは私たちのプロジェクトのロゴを配したデザインを業者に発注しました。看板には、その日のコーヒーの種類を書き、来てくれた人に知らせることができました。のぼりは水車場近くの道路から見える位置に配置することで、水車場の外にいる人たちにも私たちの活動を知ってもらうことができました。のれんは、お店の場所や営業を知らせるだけでなく、古民家の雰囲気と合って非常によかったです。



※左から看板、のれん、のぼりの写真

2つ目は、チラシの作成です。内容は3つあり、1つ目は高原水車場で2024年11月29日と30日の二日間で行われた水車まつりの宣伝のチラシ、2つ目は水車まつりに行われる私たちが主催するフォトコンテストの宣伝、3つ目は高原水車場内のマップについてです。水車まつり宣伝チラシとフォトコンテストの宣伝チラシは香川大学の幸町キャンパス、林町キャンパス、高松オルネの観光情報案内所、高松市中央図書館等に掲示させていただきました。結果、学生から社会人の方まで多くの幅広い方が訪問してくれました。高原水車場のマップは昨年度に卒業メンバーと昨年から作り始め、無事完成しました。高原水車場に置き、訪問してくれた人にこのマップを見ながら高原水車場を回ってもらうことを考えました。結果、高原水車場内に何があるのかが分かり、学生目線のその場所ごとの魅力を伝えることができ、より親しみやすく高原水車場を知ってもらうことができました。



※左から水車まつり、フォトコンテストの宣伝のチラシの写真



※高原水車場のマップの写真

3つ目は、高原水車フォトコンテストの開催です。2024年10月末ごろまで写真を募集し、集まった23点の写真と私たちのプロジェクトが活動してきた3年間の写真、高松桜井高校生の写真部の写真、保存会の方が撮ってくれていた写真を印刷、ラミネートをして展示しました。あえて、野外写真展の場所は設けず、水車場の敷地全体に紐を通して写真を展示し、写真を見ながら水車場を回れるようにしました。写真はこれまで水車場を訪れた人のいろいろな視点の高原水車場が撮られていて、私たちには気づかなかった魅力があり非常に興味深かったです。あるお世話になっている先生の写真で今は伐採された水車場横にあった林の写真を応募してくれ、その林が景観面にも川の氾濫を防ぐ防災面にも重要であるというコメントまで合わせてくれました。

訪問者に展示写真を見てもらうことで水車場の魅力だけでなく、私たちのプロジェクトの活動の歴史を知ってもらうことができました。



※NEXTSTAGE 収録の様子



※水車まつりの様子

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

大学の座学では環境意識や技術はどこか人ごとのように感じてしまいましたが、高原水車場というフィールドで活動することで、大学で学んでいたことと自分の生活が繋がったように感じました。

他に2人の学生にも聞いてみました。

- ① 人と建物の繋がりを身をもって実感できました。私は転勤族だったため建物に強い愛着を持っていませんでした。しかし、このプロジェクトに参加したことによって、その地域の重要な役割やモニュメントとなる建物の周囲への影響を学ぶことが出来ました。建物があるということは地域の人が集まる場所となり憩いの場となるのだと思いました。
- ② 今回の活動を通して、こちらからアクションを起こすことの大切さを知りました。高原水車自体が魅力的だったというのはもちろんですが、水車祭りを開催すると二日で300人以上の方が来てくださいました。こちらが世の中に対してボールを投げると、ちゃんと帰ってくるということが、可視化されてとても嬉しかったという経験をしました。この活動で学んだ主体性や積極性の大切さは、学生生活を送る中で

も様々な場面で活きました。建築を学ぶものとしてとても有意義なものになりました。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点は4つあります。

1つ目は、チラシの完成がまつりの開催日の1ヶ月近く前になってしまったことです。早くに完成し配布をすれば、より多くの人に水車まつりの開催を伝えることができたと思います。原因としては、初めてのチラシの制作で時間がかかってしまったことと制作を始めるのが夏休みごろであったことが考えられます。今後はチラシの制作を行う際は計画的に進めることを心がけたいです。

2つ目は写真展の準備がまつりの始まりの時間を超えてしまったことです。朝から来てくれた人には写真展を見られない状況になってしまいました。原因としては300枚ほどの写真を展示することがあったことと準備の始まりをまつりの始まる時間の1時間前にしてしまったことが考えられます。今後は展示の枚数の検討や準備時間を確保してイベントの準備を進めたいと思います。

3つ目は展示の写真が風で飛んでしまうことがありました。写真がなくなってしまうこともありました。次回の写真展では飛ばないようにしっかり固定するよう工夫すべきだと思いました。

4つ目は写真展を見てくれる人が少なかったことです。水車場全体を回りながら写真を見てもらうことがコンセプトでしたが、水車場内でイベントが多く行われ、写真を展示していることが伝わりにくかったと考えられます。

今後は他のイベントと考慮しながら、固定の場所の中で工夫して展示を進めようと思いました。私たちは団体を継続することを目標にしているため、メンバーを幅広く募集しています。そのため集まったメンバーで取り組んでみたいことを話し合いながら、団体としてのコンセプトや活動目的、活動内容を考え直す方針です。現時点では、所属メンバーは建築や土木を専攻しているため、今まで行ってきたコーヒースタンドの営業やイベントの企画・運営というソフト面の活動だけでなく、建物や庭などの整備というハード面の活動も行うことも考えています。

7. 実施メンバー

代表者 川嶋 伸岳（創発科学研究科1年）

構成員 桑原 絵美（創造工学部3年）

田川 蒼真（創造工学部3年）

松野 百華（創造工学部3年）

8. 執行経費内訳書

配分予算額		86202円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
のぼり用旗	2	2528	5056	
のぼり用ポール台	2	1419	2838	
のぼり用ポール	2	1428	2856	
QUOカード	1	1000	1000	
QUOカード	2	500	1000	
のぼり 回転式ストッパー	2	152	304	
ポスカ	2	660	1320	
ポスカ	1	2640	2640	
水車まつりチラシ	200	26	2570	
フォトコンテストチラシ	200	18	3640	
写真印刷	349	16	5584	
写真印刷	23	28	644	
のれん用横棒	1	880	880	
のれん用フック	2	579	1158	
のれん	1	11330	11330	
ラミネート機械	1	4980	4980	
ラミネートフィルム	4	329	1316	
麻紐	1	1590	1590	
ラミネートフィルム	1	912	912	
クリップ	2	2638	5276	
マップ	100	6	640	
アルバム	1	799	799	
テーブルクロス	2	110	220	
画鋏	1	103	103	
ポストカード	6	60	360	
投票用紙	1	219	219	
名札	4	164	656	
カレンダー	3	880	2640	
カラー不織布	1	960	960	
黒板用ペンキ	1	968	968	
刷毛	2	274	547	
チョーク	1	173	173	
ディーゼル	1	13156	13156	
看板板	1	3696	3696	
合計			82031	